



2021年5月14日

各位

会社名 K u d a n 株式会社
代表者名 代表取締役 CEO 項 大雨
(コード番号 4425 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 CFO 飯塚 健
(TEL. 03-4405-1325)

連結業績と前期実績値との差異、連結業績予想値と実績値との差異及び 営業外収益・営業外費用・特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2021年3月期の連結業績と前期実績値との間に差異が生じ、また、2020年11月6日に「通期業績予想の修正に関するお知らせ」において公表しました2021年3月期の連結業績予想値と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社は、営業外収益・営業外費用・特別損失を計上しましたので、下記のとおりあわせてお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期の連結業績と前期実績値との差異

(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 期 実 績 (A)	456	9	△12	△29	△4.17
当 期 実 績 (B)	127	△451	△1,575	△1,608	△214.97
増 減 額 (B - A)	△328	△460	△1,563	△1,579	
増 減 率 (%)	△72.0	—	—	—	

<差異の理由>

2021年3月期においては、Artisense Corporation（本社：米国カリフォルニア州、以下「アーティセンス社」といいます。）との技術統合により、グローバルでの技術優位性において従来より築いてきた AP（人工知覚）における專業独立企業としての独占的なポジションをより強化することができ、累積案件数の幅・件数拡大と同時に中長期的な製品化の早期化及び収益機会拡大に寄与する案件ポートフォリオの質の向上も達成しました。

一方で、SLAM 技術評価・製品化検討案件から製品化を見据えた事業領域・大型案件への注力

により、技術的なフィット（技術視点での顧客製品企画への適性とそれに伴う最終製品化の見込み）ないし注力領域の範囲外の案件継続の減少が生じました。また、新型コロナウイルス感染症の影響やアーティセンス社を中心とする一部研究開発スケジュールの遅延による案件の予算縮小・凍結や遅延が生じ、第4四半期以降はアーティセンス社の新技術である『VINS

(Visual-Inertial Navigation System)』（以下「『VINS』」といいます。）の提供開始及び当社との共同案件の増加、市況の回復などにより売上高の回復が続いているものの、通年実績の売上高は前期実績値から減少となりました。

営業利益については、上記要因に加え、グローバル規模での体制拡大に伴う販売費及び一般管理費の増加により、経常利益については、上記要因に加え、下記3に記載の営業外収益及び下記4に記載の営業外費用の計上により、いずれも前期実績値との差異が生じました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、上記要因に加え、下記5に記載の特別損失の計上により、前期実績値との差異が生じました。

2. 2021年3月期の連結業績予想値と実績値との差異

(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	100～160	—	—	—	—
実績値(B)	127	△451	△1,575	△1,608	△214.97
増減額(B-A)	△32～27	—	—	—	
増減率(%)	△20.1～27.9	—	—	—	

<差異の理由>

売上高の当期実績については、2020年11月6日に「通期業績予想の修正に関するお知らせ」においてレンジ方式にて開示しておりましたが、上記1記載の要因により予想レンジの中間値付近に着地した結果、上限予想値及び下限予想値それぞれから差異が生じました。

3. 営業外収益の計上

急激なポンド・ユーロ高に起因して為替差益96百万円を営業外収益に計上しました。

4. 営業外費用の計上

2021年3月期においては、上記1に記載のとおりアーティセンス社の買収により当社グループのグローバルにおける技術優位性・成長可能性等を確立しておりますが、一方で新型コロナウイルス感染症の影響やアーティセンス社の新技術『VINS』の提供開始の遅れにより、アーティセンス社の直近連結会計年度(2020年12月期)の売上高拡大の遅延が生じ当初事業計画値との乖離が生じたこと、及び新型コロナウイルス感染症の影響の継続による市況回復の不確実性を踏まえ、当社持分法適用会社であるアーティセンス社に係る投資有価証券及び同社への貸付金に対し評価減が発生しました。その結果、アーティセンス社の期中損益の取り込みと合わせて、「持分法に関する会計基準」に基づき持分法による投資損失1,232百万円を営業外費用に

計上しました。

5. 特別損失の計上

当社売上高拡大の遅延が生じたこと及び新型コロナウイルス感染症の影響の継続による市況回復の不確実性を踏まえ「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有する固定資産について減損損失 18 百万円を特別損失に計上しました。

上記3乃至5の営業外収益・営業外費用・特別損失の計上による業績への影響につきましては、本日公表いたしました「2021年3月期 決算短信[日本基準](連結)」に反映しております。

【K u d a n株式会社について】

Kudan（東証上場コード：4425）は機械（コンピュータやロボット）の「眼」に相当する人工知覚（AP）のアルゴリズムを専門とする Deep Tech（ディープテック）の研究開発企業です。人工知覚（AP）は、機械の「脳」に相当する人工知能（AI）と対をなして相互補完する Deep Tech として、機械を自律的に機能する方向に進化させるものです。現在、Kudan は高度な技術イノベーションによって幅広い産業にインパクトを与える Deep Tech に特化した独自のマイルストーンモデルに基づいた事業展開を推進しています。

詳細な情報は、Kudan のウェブサイト (<https://www.kudan.io/?lang=ja>) をご参照ください。

■会社概要

会 社 名：K u d a n株式会社

証券コード：4425

代 表 者：代表取締役 CEO 項 大雨

■問い合わせ先

ir@kudan.eu